

－ 未利用資源の有効利用（のべ縄によるスズキの漁獲実態）－

藤川裕司

目的及び方法

本テーマは、宍道湖、中海で有効に利用されていない資源の有効活用を図ることを目的としている。今年度は、昨年度に引き続き近年宍道湖で漁獲量が増大していると考えられるスズキのべ縄の漁獲実態について検討を加えたので報告する。

方法

宍道湖刺網漁業実態調査を行う際に配布する野帳に、平成13年4月からスズキのべ縄の漁獲量、漁獲金額を記入する項目を新設した。これをもとに、スズキのべ縄の平成14年4月～15年3月の出漁日数、漁獲量、単価の集計を行った。

結果および考察

野帳記帳3経営体による平成14年4月～15年3月のスズキのべ縄出漁日数とスズキ漁獲量を表1に示した。漁獲量は5月にもっとも多く、その後減少して行き、11月以降は漁獲されない。この間の合計漁獲量は、2.9トンであった。平成11年には少なくとも23人の着業者が認められており<sup>1)</sup>、仮に平成14年度も同様の人数の着業者があったと仮定すると、合計で22トンを漁獲したことになる。

のべ縄で漁獲されたスズキ、チュウハン、セイゴの単価を表2に示した。スズキは、8月の1373円/kgを最高に夏季に高値を示した。刺網で漁獲されたスズキが単価が低く、そのため出荷されることも少ないのと<sup>2)</sup>対照的であった。この高値は、のべ縄で漁獲されたスズキは、生魚で持ち帰った後即殺され、さらに血抜きを施されるといった、扱いの良さから生じた現象だと考えられる。

これらのことより、近年、宍道湖において資源量が増加しているスズキの漁獲方法としては、のべ縄が優れていると考えられた。

表1 野帳記帳3経営体による平成14年4月～15年3月のスズキのべ縄出漁日数とスズキ漁獲量

	出漁日数	漁獲量(kg)*
4月	0	0
5月	26	1,235
6月	23	627
7月	13	434
8月	10	296
9月	7	179
10月	2	79
11月	0	0
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
計	81	2,850

\*スズキ、チュウハン、セイゴの合計

表2 平成14年4月～15年3月にのべ縄で漁獲されたスズキ、チュウハン、セイゴの単価(円/kg)

	スズキ	チュウハン	セイゴ
5月	423	—	—
6月	467	—	—
7月	860	—	—
8月	1373	400	200
9月	1095	400	200
10月	814	—	—

## 文献

- 1) 内田 浩ほか (2000) : 平成 11 年度島根県内水面水産試験場事業報告、5-14.
- 2) 藤川裕司(2003) : 平成 13 年度島根県内水面水産試験場事業報告、3-8.